

サイエンス誌、学術誌に掲載された科学研究の再現性は過去に問題視されているほど低くないとする論文 2本を掲載 (3月3日)

2005年に「プロス・メディシン (PLOS Medicine)」誌に掲載された論文や、2015年にオープン・サイエンス・コラボレーション (Open Science Collaboration) が発表した論文などにより、学術誌に発表された科学研究の再現性が非常に低いことが近年問題視されているが、3月3日付で「サイエンス (Science)」誌にこれに関する研究結果をまとめた論文2本が掲載された。1本目は、ハーバード大学 (Harvard University、マサチューセッツ州) 心理学教授のダニエル・ギルバート氏 (Daniel T. Gilbert) らによる、オープン・サイエンス・コラボレーションが行った再現性実験の不備を指摘した論文で、検証対象となった100本の心理学論文の再現性実験における被験者グループ選出が不適切であったことなどが低い再現性の一因とした。2本目は、カリフォルニア工科大学 (California Institute of Technology) 行動経済学教授のコリン・キャメラー氏 (Colin F. Camerer) らによる、主要経済学術誌に掲載された研究18件の再現性実験に関する論文で、検証対象となった論文の61%において再現性が確認できたとしている。

なお、ギルバート氏らによる論文の要約は<<http://science.sciencemag.org/content/351/6277/1037.2>>から、キャメラー氏らによる論文の要約は<<http://science.sciencemag.org/content/early/2016/03/02/science.aaf0918>>から、それぞれ閲覧可能。

The Chronicle of Higher Education, Can Science's Reproducibility Crisis Be Reproduced?
<http://chronicle.com/article/Can-Science-s/235582>